

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	教育学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 施設・設備の整備については、完成年度以降の教育学部再編計画に併せた整備計画を立案する。	→ 「将来ビジョン委員会の開催回数」	B	B	/	/	/
2. 教育研究支援体制については、TAの配置の具体案を策定する。	→ 「TAの制度について検討のための委員会開催頻度と進捗状況」	C	C	/	/	/
3. 研究倫理を遵守するために学内関連諸規程の周知徹底を図る。	→ 「教授会などを通して周知徹底の回数」	B	B	/	/	/
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
小項目9.0.4	(説明) 教育学部再編構想立案にあわせて施設設備の整備計画についてその必要性を確認するとともに、将来ビジョン委員会からも施設設備整備計画策定の必要性が指摘されている。研究支援体制の整備については、開設時の計画通り進めている。研究倫理については、教授会などでその周知徹底を行った学年進行で授業時間数が増加するとともに、将来ビジョンの策定などで、各種委員会の開催や作業が増加しており、教員の研究時間が十分に取れていないことが懸念されている。
☆	その他

《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【教育学部】			単位	2007	2008	2009	2010	2011	備考
指標1	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、授業補佐の採用数	教学補佐	人	/	/	4	4	4	
		実験実習指導補佐・教務補佐	人	/	/	5	5	6	
		授業補佐	人	/	/	0	0	0	
指標2	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間	/	/	5.2	8.1	12.5	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間	/	/	3.9	8.5	11.5	
		講師	時間	/	/	0.7	6.0	—	
		助教	時間	/	/	—	—	—	

(その他の指標データ)

専任教員の研究費(実績)【大学基礎データ】

専任の研究旅費【大学基礎データ】

学内共同研究費【大学基礎データ】

教員研究費内訳【大学基礎データ】

科研費の申請・採択件数【大学基礎データ】

学外からの研究費の総額と一人当たりの額【大学基礎データ】

外部資金等導入状況【基本的な指標データ】

教員の研究室の整備状況【大学基礎データ】

学部、研究科ごとの講義室、演習室の面積・規模【大学基礎データ】

学部、研究科ごとの学生用実験・実習室の面積・規【大学基礎データ】

学部、研究科ごとの規模別講義室・演習室使用状況【大学基礎データ】

留学、特別研究期間制度、自由研究期間制度の利用状況【基本的な指標データ】

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

☆	小項目9.0.4	
	その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

☆	小項目9.0.4	
	その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

☆	小項目9.0.4	大学院生の人数は引き続き少数であり、TA配置の検討が進んでいない。施設設備の整備については、学院全体の理解が必要となる。研究時間の確保のためには、会議の回数などの再検討が必要である。
	その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

☆	小項目9.0.4	大学院生の人数が確保された場合は、TAの配置を検討する。施設設備の整備については、大学を通して法人に理解を求めていく。再編構想がまとまった段階で、会議や作業などの持ち方を見直す。
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○施設設備の計画的整備及びT Aの配置について今後の努力が望まれます。

【学内委員】

○適切に点検評価が行われています。

○大学院生が少数のため、T A配置が行き届かないという理由は理解できます。他研究科の院生にお願いするといった工夫は可能でしょうか。

○学部再編に向けた施設設備の整備が必要と思われます。

○現記述では、現状がどのようなものであるのかわかりません。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目9.0.4

基盤評価：「専任教員に対して、研究活動に必要な研究費を支給している」「専任教員に対する研究室を整備している」

○小項目9.0.4&9.0.5

達成度評価：「教育研究を支援する環境や条件が、その整備・運用状況等から見て、方針に沿い、適切である。その際、下記事項については、当該大学の特質に応じて、適切な配慮を行っている。

- ・研究専念時間の設定など、教員の研究機会の保障
- ・ティーチング・アシスタント（T A）、リサーチ・アシスタント（R A）等の人的支援
- ・研究倫理に関する規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

《現状の説明》9.0.4の（説明）部分に下記のように追記。

- ★現状については、学部開設時の設置認可申請書に従って整備している。具体的には、理科室1室、家庭科室1室、美術室2室、音楽リズム室1室、小児栄養実習室1室、ピアノレッスン室8室(一部聖和短期大学と共用)等々の幼稚園教員、小学校教員および保育士の養成に必要な教室を十分に備えている。また、各専任教員のための個人研究室（13-28㎡）を1号館、3号館、5号館、6号館および体育館に設けている。